

そうじの力だより

VOL.246



支援レポート

変える勇気が会社を成長させる
～見た目が変わると気持ちも変わる～

(株)セルビーハウジングは、兵庫県赤穂市に本社を置き、姫路市にも支店を持つ、注文住宅メーカーです。

ここで、二年前から整理・整頓・清掃の活動をお手伝いしています。

当初は、赤穂本社、姫路支店ともに、モノが多く、スペースを狭めていました。それを、セオリーに従って、不要なものを捨てていき、スペースを拡げて、環境を改善していつています。

一般的な注文住宅の工務店と違い、同社は、施主の要望をとことんまで受け入れるため、それぞれの住宅が非常に個性的です。たとえば、ヨーロッパの邸宅風の家を建てる場合には、実際にヨーロッパのメーカーから輸入したサッシやレンガを使用したりします。したがって、扱う建材や部材も、珍しいものが多く、種類も多くなります。

整理、つまり不要なものを捨てる際に、一般的な工務店の場合には、「定番」の材料が多く使われるので、それ以外のものは捨てるのに、いいという判断になることがあります。

ところが同社の場合には、その



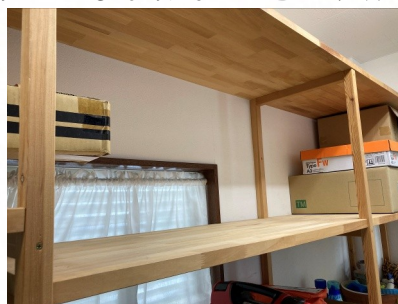
皆での倉庫整理の活動のようす

もそも定番というものが存在しないので、要不要の判断がとて難しくなります。

中には、築二〇年の顧客から修繕の要望があり、当時輸入してストックしていた材料が役に立った、という事例もあるそうです。そういった個別対応こそが、同社が顧客から支持されている大きな要素だと言いますから、この特長を

スボイルするわけにはいきませ

とは、物理的、制約もあるの



必要最小限になった姫路支店のバックヤード

分は思い切らなければなりません。

こうした厳しい条件下で始まった整理・整頓・清掃ゆえ、始めたころは、なかなかペースが上がらなかった。

社員さんたちにも、それぞれキャラクターの違いがあります。なかなか捨てられない人もいれば、思い切ってどん

どん捨てていく人もいます。会社として、強制的にペースを上げさせるようなことはしません。機が熟していくのを待ちます。

そんな同社で、ここ最近では、赤穂本

社、姫路支店ともに、にわかに動きが出てきました。

それぞれの積極的な人たちが、思い切って不要物を捨てたり、大胆にレイアウト変更をしたりして、物理環境が大きく変わりつつあります。

見た目が変わると、それにつれて人の心も変わります。慎重派の社員たちも、どんどん積極的になつていきます。

姫路支店のバックヤードには、当初、余り誤り配りした部材などがあふれていたのですが、フエアで安値で売ったり、廃棄したりして、必要最小限のものだけになりました。



【After】道具が壁掛け式になった本社倉庫

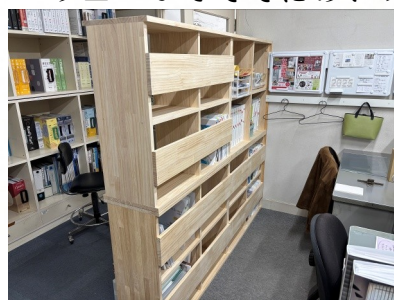


【Before】モノがあふれていた本社倉庫

赤穂本社には、敷地内にトラック用のコンテナが置いてあり、そこに資材や建材を詰め込んでいたのですが、整理してモノを減らし、コンテナを撤去しました。おかげで、駐車スペースが拡がりました。

また、材料や道具を保管してある倉庫の中は、当初はグチャグチャにモノが詰め込まれていたのですが、棚の一角を壁掛け式の道具置場に変えて、非常に使い勝手がよくなりました。

そして、本社の事務所も、以前は壁で仕切られていたくつろの部屋に分かれていたのですが、その壁をぶち抜き、広い空間になりました。さらに、現在、大幅なレイアウト変更を実施している途中で、より一体感の感じられる事務所に生まれ変わりつつあります。



大胆にリフォーム中の本社事務所内

上中祥暢社長は、「変えたいと思っていてる人が、皆を巻き込んで、思い切って進めてくれている。私にはたいがい事後報告だが笑、それでよいと思う。」と語ってくれています。同社の取り組みは、これから本番です。(小早)



掲載記事紹介

月刊『企業実務』2025年12月号

～“職場改革”につなげる「年末大掃除」の進め方～



先日、依頼を受けて、日本実業出版社の刊行する月刊誌『企業実務』に、記事を寄稿しました。

依頼を受けたテーマが、「年末大掃除」。ご承知のとおり、

私が推し進めている環境整備(整理・整頓・清掃)とは、大掃除を不要にすることです。しかし、もちろん、大掃除でも適用できることなので、それを書きました。

以下、一部を抜粋してご紹介します。

〈ここで重要なのは、「整理→整頓→清掃」の順序です。まず整理をしなければ、不要物が邪魔になりその次に進めません。整理が不十分のまま整頓をすると、使いもしない物の収納に頭を悩ませる、といった不毛なことが起こります。整頓が不十分のまま清掃をすると、せっかくピカピカに磨いた物の置場がわから

なくなり、また乱れるといったことになりかねません。〉

〈もう一つの大切な原則は、「見えないところ」にきちんと手をいれることです。見えるところは、普段の掃除によって、ある程度はキレイになっていることでしょう。大掃除では、普段はなかなか手を入れない、裏や奥、隅に手をいれることが重要です。〉

〈不要なものを捨てる際に大事なことは、「使えるか使えないかで判断」するのではなく、「使うか使わないかで判断」することです。機能的に使えても、実務上使わないものは捨てましょう。〉

〈工場の中に、不要な道具や資材が溜まっていないでしょうか。原則として、一年以上使っていないものは捨てましょう。通常私たちのビジネスは12ヶ月単位で動いているので、一年以上使っていないものは、まず今後も使いません。また、工場の中に、遊休機械が放置されてはいませんか。製品の仕様変更などで、まだ使える機械ではあるものの、何年も使用されずに放置されていることがあり

ます。購入価格が高かったから、という理由で処分をためらう経営者が多いのですが、モノよりもつたいないのはスペースです。狭めているスペースのぶんだけ、生産性が悪くなります。〉

〈見えないところを掃除する際のコツは、「動かせるものは動かす」あるいは「外せるものは外す」ということです。什器や機械は、動かせるのであれば、動かしましょう。それらが配置されていた下部や背面があらわになります。扉やカバーも、取り外せるものは取り外しましょう。その奥の部分があらわになります。〉

〈大掃除は、社員のリーダーシップを育て、コミュニケーションを促進する絶好の機会です。業務そのものと違い、スキルや経験は不要なので、思い切って若手を実行委員長に任命するのもよいでしょう。〉

言うなれば、環境整備とは、毎日、毎週、あるいは毎月、大掃除をするようなものです。回数(頻度)が増えれば増えるだけ、効果も大きくなることは、いうまでもありません。(小早)

編集後記

大祓

岡山県の奥地に、サムハラ神社(本当は難しい漢字)というのがあります。祈願した武道家が鉄砲の弾を避けたなど、すべての災厄を祓い除けるという噂の、不思議な神社です。

先日、出張の合間に同社に足を延ばして、お参りしてきました。

果たして、旧年の災厄を祓い落とし、新たな年の希望を拓く霊験を得られたでしょうか・・・。

2025年、お世話になり、誠にありがとうございました。
2026年も、どうぞよろしくお願いいたします。(小早)



飛鳥のつばやき

ものづくり

市役所で開催されたスマホアプリ作成体験会に、「ゲームクリエイターになりたい!」という長男と参加してきました。

「ウェブサイトにリンクするボタンを作成する」「AI音声を出す」などの、PCで作成したプログラムが、リアルタイムでスマホに反映され、親は大興奮でしたが、本人は「なんのこっちゃ」という様子(笑)。

「自分が作ったものが動く」感動、楽しさが、そのうち芽生えると良いと思います(〰〰)。

2026年も、引き続きよろしくお願いいたします!(大概)



株式会社そうじの力

そうじで組織と人を磨くコンサルティング

弊社は“そうじ＝整理・整頓・清掃”を通じた企業風土改革を支援します。

講義、実習、チームミーティング、計画作り、現場巡回を通じて、社長と社員の意識改革を図り、健全な企業風土作りをお手伝いします。

支援期間は1年から。毎月1回訪問を

原則としますが、企業規模や現場の状況、ご要望に応じて、プログラムをオーダーメイドします。

また各種団体向けの講演のご依頼も受け付けております。(全国対応)